

顔語り

Nice Face

早坂 慎一

はやさか しんいち
1966年、宮城県仙台市生まれ。仙台高校卒業後、ホテルユニバー
ス仙台に入社。その後SMI代理店、インターネット教材販売会社、建設
工事会社勤務を経て、2004年に株式会社ライズシティを設立し、代
表取締役就任。

出勤途中、五橋に建つビルの周辺を毎朝熱心に清掃している。この会社の
従業員の姿をよく目にする。『for client for community』
お客様のため、地域のため』をスローガンとして掲げ、6年前に建設不動産会
社(株)ライズシティを設立した早坂慎一さんを取材して、実は彼らがこの会
社のスタッフの皆さんであったのだと気づかされた。

父親が仙台市内で土建業を営む家で生まれ育った早坂さんは、近所の親達
から、あそこの子供と遊んでほろとレニルを貼られるほどの悪ガキで
あった。「家は貧相な平屋住まいで、多分仙台でも二を争うほど貧乏だったと
思います。高2の時に父が会社を潰しまして、その時から建設業というものが
大嫌いになりましたね」。親への反発も手伝い真面目に学校へも通わなくなり、
落ちこぼれの烙印を押された早坂さんは1年留年して高校を卒業。就職先が
見つからず、とりあえずホテルチェーンのアルバイト面接を受けてみるのだが、そ
こで思いがけず人生の転機が訪れる。「社員にならないかと声を掛けていただ
き、レストランのウェイター職でしたが喜んで入社させて貰いました。当時飲食
部をマネジメントされていた方が大変尊敬できる方で、その方が移動されるま
での約2年間、サービスの基本となるおもてなしの心を学ばせていただきました
」。それまでのチャランポランさは影をひそめ、すっかり社会人としての自覚
も芽生えた早坂さんは、次第に自分で商売をしたいと思うようになり、知人に
紹介された成功プログラムを販売する会社の営業職へと転身する。「丁稚奉公
のつもりで飛び込んだのですが、最初の4年間は全く売れず、給料がゼロとい
月もありました。辞めて行く社員も多かったのですが、中途半端はもう嫌だと

思う営業を続けているうちにお客様からの紹介が少しずつ増えて行き、仕事
が軌道に乗り始めます」。その後インターネット教材の販売会社で営業管理職
を経験した後、以前お世話になったある建設会社の社長に請われて、4年間自
己破産の危機を感じながらもその会社の民事再生事業を取り仕切る。「父が
倒産した時には何もできませんでしたが、自分を頼りにしてくれる恩人を何
としても助けたらいい思いが強かったですね。困難な仕事でしたが、この時に
大嫌いだっただ建設業に対する認識が良い意味で変わりましたし、当時お取引
いただいたお客様との縁は今も尚続いています」。そして、幼い頃から自分に期
待を寄せてくれていた最愛の母の死をきっかけに38歳で独立を果たし、現在は
少数精鋭のスタッフ達と共にハウスビルダーとして天然素材のオーダーメイドエ
コ住宅を軸に施主様との対話を重視した家づくりを推進し、安全で品質が高
くリーズナブルな住宅の提供を続けている。「創業以来堅実な経営をモットー
としてやってきましたが、最近ようやくスタートラインに立てたかなと感じて
います。住まいを通じてお客様に生きる喜びを提供したい、という思いが常に在
りますが、近い将来そのゾーンで暮らす人々が日々幸せを実感できるような、
ホブルや病院SCなども併設した街の開発を是非手掛けてみたいですね」。

お世話になった方々への恩返しとして「サンライズクラブ」を自ら組織し、
100社以上の会員が集う月例セミナーや各種イベントの開催を通じて異業
種交流を促進し、互いに自己研鑽しながら地域貢献を果たそうと行動する早
坂さん。その精神の源は、人が教えてくれるものはまずやってみる」という素直
な心の在り様と読み解けた。

インタビュー／安達昌宏 撮影／大沼英樹

